

脱炭素社会の実現を目指す、 安心安全な不燃断熱材

日塗工色見本
N-25~35
類似色

アクアモエンNEOは、環境に配慮かつ、不燃性能を有した高性能な断熱材です。火災等のリスク低減を目的として開発されました。断熱効果に優れた先端発泡断熱材のため活躍分野は多岐に渡ります。

▶ 壁



▶ 天井



▶ 倉庫



▶ 折半屋根改修



▶ 断熱不燃パネル等 建築材料



▶ 冷凍・保冷車



注意事項

- 火気厳禁**
ウレタン施工後やむをえず溶接、溶断される際は消火器(水入りバケツ)を準備され、監督者立ち会いの上で実施してください。
- 保管の注意点**
ドラム缶は倉庫内の冷暗所で保管してください。屋外に保管する場合はフタを確実にしめ、水分が入らないように充分注意してください。ドラム缶は内圧が高くなっている場合があります。蓋を開ける際は圧抜きをしてから開封してください。
- 施工上の留意点**
施工上の留意点は原液使用標準をご確認ください。
※詳細はご相談ください。
- 酸素欠乏の防止対策**
地下室等、酸素欠乏の恐れのある通風が不十分な現場での作業については万全の安全対策を行ってください。
- 床板、天井板に関して**
RC以外の床板や天井板で目地及び板自体の動きが大きい場合には断熱材に割れが発生する場合があります。

不燃断熱材

アクアモエンNEO

建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム



株式会社 日本アクア

〒108-0075 東京都港区港南2丁目16番2号 太陽生命品川ビル20階
TEL: 03-5463-1117 (代表) FAX: 03-5463-1118
<https://www.n-aqua.jp>



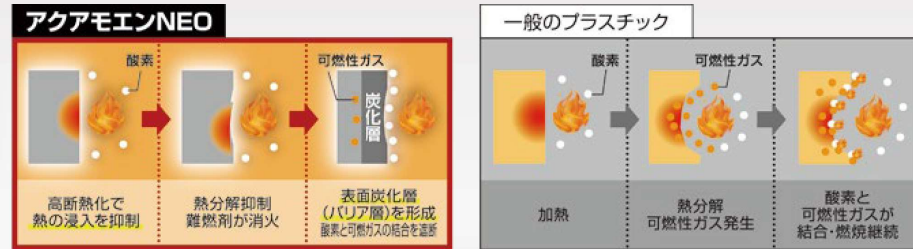
吹付け不燃断熱材

“アクアモエンNEO”

不燃性能を有する断熱材

断熱材の不燃特性を確認

■ 燃焼のメカニズム



炎(熱源)により表面が炭化する事で、フォーム内部への炎侵入を防ぐパリア層を形成し、不燃性能を発揮します。

一般的なプラスチック断熱材では分解による溶融で燃焼が継続します。

■ 燃焼実験(建設現場に合わせた火花にする)



強固な炭化層の形成によって溶接火花がフォーム表面にとどまり内部に侵入しません。
JIS A 1323に建築工用シートに溶接及び溶接火花に対する難燃性試験方法にて試験実施。

■ 国土交通大臣不燃材料の認定を取得 アクアモエンNEO認定一覧

認定番号	認定をした構造方法等の名称	仕様(厚さ)
NM-4962-1	ポリイソシアネートフォーム吹付/基材(不燃材料(金属板を除く))*1	20~300mm
NM-4963-1	ポリイソシアネートフォーム吹付/基材(不燃材料(金属板))*2	
NM-5288	ポリイソシアネートフォーム吹付/押出成形セメント板	15~300mm

*1 平成12年建設省告示第1400号に例示されたアルミニウムを除く不燃材料のうち、すでに化粧を施されたもの及び鉄鋼、金属板を除くもの。
*2 平成12年建設省告示第1400号に例示された鉄鋼及び金属板のうち、すでに化粧を施されたものを除くもの。

環境負荷が少ない高性能断熱材

ノンフロン・高断熱性

環境に負荷の少ない発泡剤 HFO(オゾン層破壊係数ODP=0、地球温暖化係数GWP=1)を使用したノンフロン断熱材です。

工期短縮

単一材料で不燃試験取得しているため、従来の湿式不燃材を用いた複合材料と比較して、工程を減らし工期の短縮が可能です。

長期性能

吹付けると瞬時に硬化し基材に自己接着します。接着強度が長期間保たれ湿気も吸収しにくいいため、脱落などの心配がなく長期的に不燃、断熱性能を発揮します。

耐水性

透湿率が低く、水の影響も受けにくいいため、ピットなどの不燃、断熱性に適用できます。

冷凍・冷蔵施設の断熱

JISA9526のA種2Hの規格を満たし、冷凍・冷蔵施設の不燃断熱材として適用可能です。

■ 物性値

● 建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム (A種1H、A種2H)

試験項目	単位	測定値	規格値 (JIS A9526:2015)	
			A種1H	A種2H
原液粘度	ポリイソシアネート成分 (mPa・s)/20℃	306	80~1500	
	ポリオール成分 (mPa・s)/20℃	334		
圧縮強さ	(kPa)	211	80以上	170以上
熱伝導率	[W/(m・K)]	0.023	0.026以下	
接着強さ	(kPa)	143	80以上	100以上
透湿率	[ng/(m・s・Pa)]	3.9	9.0以下	4.5以下
燃焼性	(秒)	61	燃焼時間が120秒以内で、かつ、燃焼長さが60mm以下	
	(mm)	34		

※性能の改善により、物性値は変わる事があります。 ※当社実測値であり、保証値ではありません。
※設計値についてはJIS規格値を用いることを推奨いたします。 ※-40℃以下(F3級、F4級)冷蔵室に使用される場合は事前にご相談下さい。